

浜益区の摺鉢山

すりばちやま

◀春分のころの
摺鉢山と黄金山



浜益区の黄金山は、ユーカラの舞台をほうふつとさせる景観と、主人公の英雄ポイヤウンペのチャシとりで(砦・館)があつたという伝承から、アイヌ文化にまつわる名勝地として昨年7月に国指定となりましたが、実はこの山と同じ伝承を持ち、夫婦だといわれる山がそばにあります。その山とは摺鉢山です。この山は標高169mで、浜益川河口から見ると三角形をしています。

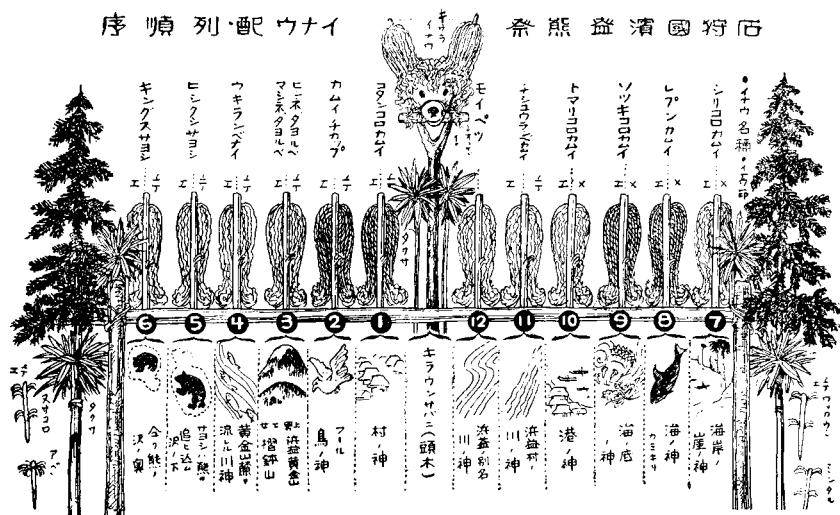
黄金山はアイヌ語で「ピンネタイオルシベ」、「森の中に立つ男の山」の意味です。アイヌ社会では「ピンネ」という語が付く山があれば、ほとんどの場合近くに「マチネ○○○」という山があります。摺鉢山はアイヌ語で「マチネタイオルシベ」といい、「森の中に立つ女の山」という意味です。ですか

ら黄金山と摺鉢山は男女二対で、それが夫婦という伝承となったのでしよう。しかし摺鉢山は低く、それほど山らしい山でもありません。それがどうして黄金山のパートナーだとされるようになったのでしょうか。

その理由のつに、浜益川の川上で東に位置する地理的な条件が挙げられます。というのは、一般にアイヌの伝統では、コタン(村)から見て川上あるいは東は聖なる方角だといわれています。なぜ聖なる方角かというと、川上あるいは東に神々の国(カムイモシリ)があるからです。また、摺鉢山は春分と秋分に山頂から太陽が昇る山で、その神秘的な特徴も一因になっているのではと考えられます。

また、このような資料もあります。図は昭和17年発行の『アイヌ芸術』(第二巻／金田一京助・杉山寿栄男著)に掲載された浜益のクマ送りの祭壇のスケッチですが、左端から4番目の摺鉢山・黄金山まで(図中③⑥)はクマの猟場の位置と関連しており、二つの山はクマの猟場として密接な関係があつたことが推測できます。こうした点も含め、摺鉢山は黄金山と共に浜益のアイヌ民族が敬う山となったと考えられます。

(石橋孝夫)



二 圖 神

▲アイヌ民族の伝統儀式、クマ送りの祭壇の図



春分の摺鉢山の日の出▶

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館

☎62-3711 ✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp